

椛の湖農業小学校だより

No.136

どんびま

2010年11月9日発行

発行者 椛の湖農業小学校

甘酒まつり

自宅からは北北東の鹿峰と呼ぶ山の尾根に我が家の氏神様が祀られている。旧飛騨街道の直路(すぐじ)峠へ向かう道の上であって、御岳の地震の時は石灯籠の笠の石が道まで転がり落ちた。

新暦11月10日が例祭で、昔はこの日までに臼挽きを済ますのが秋作業の目標だったという。一重携帯の直会に甘酒を振舞うのが慣わしであった。



今の子どもたちは甘酒をあまり好まないが、我等の世代には貴重な甘味であった。甘酒まつりの日は、子どもの頃を思い出し、先祖を偲ぶ日でもある。 (草)

11月授業日のご案内

- 日程 11月28日(日)
受付 9:00~9:30
はじめの会 9:30~9:40
授業(収穫) 9:40~12:00
収穫祭(昼食) 12:00~14:00
卒業式 14:00~15:00
(卒業証書授与)(文集配布)
(バケツ稲・かかしコンクール表彰)

- 持ち物 手袋、タオル、雨具、着替え
買い物袋(たくさん)、箸、食器

☆28日に欠席の人のために、
12月5日(日)午前11時から12時まで、野菜の収穫だけをします。
お出かけの方は事務局まで必ずご連絡ください。

- 締め切り 11月23日(厳守)

- 郷土料理 ぜんざい、おでん、五平餅ほか

- 問い合わせ・緊急連絡

TEL0573-75-4417・09051109362・FAX75-4418 (山内總太郎)

お知らせ

今年もまた、下野いきいき会館で 冬期の課外授業を開催します。

12月 しめ縄づくり

1月 凧づくり・凧揚げ 左義長(地元の行事に参加)

2月 染物

細かい日程は次号137号でお知らせします。

問合せ・申し込みは小林まで。

TEL 0573-72-4835

～とくちゃんの農小レポート～

脱穀は楽しい！米にするのは大変だ！

蕎麦の実も早くも完熟を迎え、20日頃には収穫の予定とか！二ヵ月余りで一生を終える作物は少なく、殆どどの野菜は途中で、人間や家畜の口に入ってしまう。ソバは短期栽培の貴重な作物であり、大切な穀物でもあります。

1 午前の授業。

畑の作業は収穫でした。落花生、さつまいも、ねぎ、里芋、枝豆、大根のすぐり菜、と盛り沢山でした。今年のさつまいもは大変出来がよく、今月と来月の焼き芋となります。落花生もタヌキさんに食べられることなく豊作でした。

2 昼食。

栗赤飯、豚汁、大根サラダ、しいたけの天ぷら、ちくわの天ぷら、にんじんのカラムーチョ。

昨年春に生徒さんに菌を植えてもらった原木に、椎茸が生えてきましたが、皆さんに行き渡る程にはなく、来月の食材として使っていただきます。

3 午後の授業。 脱穀と粳すり。

脱穀は例年のように「こばし」(せんば)と足踏み脱穀機を使って行いましたが、とても楽しそうに参加していました。粳摺りは今年始めて、すり鉢とテニスボールを使ってみましたが、どうも上手くはいかなかったようでした。やはり一升瓶で搗くのが早いのかな？ その玄米を白くするのはもっと大変なようですが、これも体験です所以頑張ってみましょう。

念のため、一升瓶と搗き棒はお返しください。

4 持ち帰り。

落花生、里芋、葱、枝豆、大根すぐり菜。と今月は盛り沢山の収穫野菜がありました。サツマイモは11月も焼き芋に使います。

落花生は生のままボイルして食べると、とても美味しくてビールのつまみには最高です。

～とくちゃんのちょっと一言～

早くも11月には卒業式を迎えます。歳と共に一年間が早く感じら様に思われます。再三ご案内しているように、一年間の締めくくりとしての、作品展を行います。生徒の皆さんは元より、ご父兄の方々にも是非出展をお願いいたします。当日又は事前(事務局宛)に出して頂き、授業終了後にお持ち帰り頂きますので、名前を付けて(当日は受付に)出展ください。

尚2L位の写真などは事前に届けて頂けば、大きく伸ばして展示させて頂き頂きますのでよろしく！

～あぼ兄の百姓ばなし～

「祭りは人と人をつなぐ」

実りの秋を祝って、各地で祭りが行われる。

坂下の八幡神社では、800年の伝統を誇る勇壮な「花馬まつり」(岐阜県重要無形民俗文化財)が10月10日(日)に行われた。(どんびき135号参照)

あぼ兄の隣の地区、田瀬の南宮神社でも「花馬まつり」が行われるが、農耕や山仕事で働いていた馬が時代とともにいなくなって、昭和40年からは木馬に替わり、それを台車に乗せ街を練り歩く。木馬の背には「家内安全」「交通安全」「五穀豊穰」を祈願した花串が飾られて、ご利益にあやかろうと神社に詰めかけた参拝者に配られる。

あぼ兄の下野地区の白山神社(氏子250戸)では「山車」を曳く。

かつては、その時世の話題の物やアニメのキャラクターなどを作って荷車に乗せ、子どもたちがロープで引きながら街を練り歩いた。交通安全を願ってゆっくり走る「亀」を作った年もあった。日本三大庚申の一つと云われる下野庚申堂のシンボル「三猿」を作り、祭りの後にコンクリートで固めたものは、国道257号線脇に今でも建っている。

下野には「小町井戸」と呼ばれる涸れることのない湧水の池がある。かの小野小町が奥州への旅の途中に立ち寄り、その水面に顔を写し化粧を直したと云い伝えられている。何年か前に、「小野小町」のルーツを知るために、秋田県雄勝町で開かれた「小野小町サミット」に地区として参加した。下野も「小野小町縁の地」と承認されていた。

さあこれを機にむらづくりのテーマにしよう、2代続く宮大工さんを中心に本格的な山車を作ることになった。当時は勢い余って、二階建の高さ5メートルほどの山車が出来上がったが、道路が悪いので大きく揺れるうえに、各戸にある電気・電話の引き込み線に引っ掛かるなど、曳き回すのに難儀で、今では一階に切り下げてある。小野小町に扮した若い女性三人が、薄衣に市女笠の旅姿で一日かけ山車と一緒に街中を練り歩く。

4町内会に分かれている祭り元が、今年は我が町内会に回ってきた。あぼ兄はかつては祭りの中心にいたが、今では地区の長老として町のみなさんから受ける御祝儀の受付係だ。




多くの人たちとの出会いがあった。受付車の窓から見ていると、お母さんに抱っこされた小さな子どもから、杖をついたお年寄りまで皆の楽しそうな笑顔こそが祭りだった。「あの人は誰だったか」「あれはとなり町から来たムコさんだ」と一日中話題はとぎれない。また、近くにある新興住宅のみなさんも、普段は疎遠だが、今年は祭りに参加してもらった。これを機会に親しくして、村づくりに一緒に参加してほしいものだ。

子どもたちのハッピー姿での参加はいい体験になったはずだ。みんなでつくりあげたお祭りは、この地を離れて行く子どもにも、ふるさとを思い出すだけでなく、自分を元気づける思い出になるだろう。



車社会は同じ地区でもなかなか人に会えない。子ども達との出会いも全く会話がないうまま終わってしまうこともある。祭りは人と人の出会いをさらに深める。子ども達にとっても地域の大人との関わりは、共通の話題もつくり、とても意義がある。

今年の夏は酷暑だっただけに、ことさら実りの秋を祝う気持ちと合わせて祭りを思う。

かなちゃんの虫日記

。 。 冬がきた！  。 。 。 。 。  

。 ！、きにさむくなりましたね。夏がどんなにあつても冬はちゃんとやってきますね。

さて、冬がちかづいてくると、空中をこなゆきみたいなほこりみたいな白いフワフワしたものがとんでるのを見かけませんか？「ゆきんこ」とわたしは小さいころからよんでいます。手にのせて、ルの中でねがいごとをつぶやいて、ひとりごにこびたっていけば「ねがいごとがかなう...」なんて言っておそんでいました。  ... 

あの「ゆきんこ」はアブラムシのなかまのひとりです。春から秋にかけていろいろなやさいや花の葉はやくきにびっしりとならんで ^{いんぷう}植物のしるをすっていたあのアブラムシのなかまなのです。

あの白いフワフワのわたみみたいなものは???

ワックスです。アブラムシは甘いしるを体からだします。その甘いしるはべたべたするだけでなく ^{びょうき}病気のもと(カビ)にもなります。そんな甘いしるを自分の体につけないようにするために、水分をはじくことができるワックスを体にまとしてしるのではないだろうか、と書かれています。

アブラムシがサラリともちよくすごせて、もちよくとべればみんなのねがいごともかないやすくなるのかな？